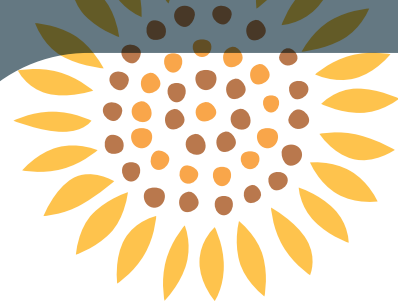


令和6年度～令和10年度



目 次



第 1 章 はじめに	1
1 ひまわりビジョン2028とは	
2 位置づけ	
第 2 章 南区の概要	2
1 沿革と地勢	
2 区を取り巻く状況と課題	
第 3 章 まちづくりの方針	8
1 基本方針	
2 魅力あるまち南区	
3 地域交流・区政運営の取り組み	
第 4 章 魅力あるまち南区の実現に向けた取り組み	11
魅力あるまち南区	
災害に強いまち	12
安心・安全で快適なまち	18
だれもがいきいきと暮らせるまち	22
子どもがすこやかに育つまち	26
こころうるおい個性輝くまち	30
地域交流・区政運営の取り組み	34

区長あいさつ

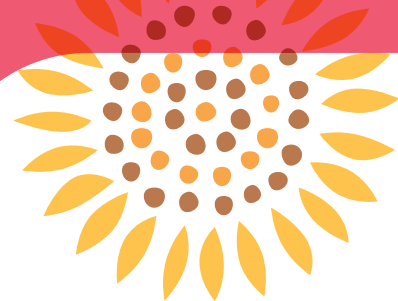
南区はこれまで、震災や戦災、そして多くの被害をもたらした伊勢湾台風や東海豪雨など、幾多の困難を地域の皆さまをはじめ多くの方々の励まし・助け合いなどで乗り越えてきました。その中で育まれてきた住民相互の連携を基礎として、現在も、防災や福祉、子育てなど様々な分野で、地域が主体となった取り組みが活発に行われています。

こうした地域の特色を生かし、区民が地域への誇りと愛着を持てるようなまちづくりを進めるために、このたび、南区における中長期の取り組みをまとめた「ひまわりビジョン2028」を策定しました。

策定にあたりましては、ひまわり会議（区民会議）の場などで、区民の皆さまから貴重なご意見を賜りました。どうもありがとうございました。

住みたい、住み続けたいと思っていただける「こころのかよう、あたたかいまち南区」をめざして、地域課題の解決やまちづくりを進めてまいりますので、これからも、皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いします。

令和6年5月 南区長 小杉 政巳



1 ひまわりビジョン2028とは

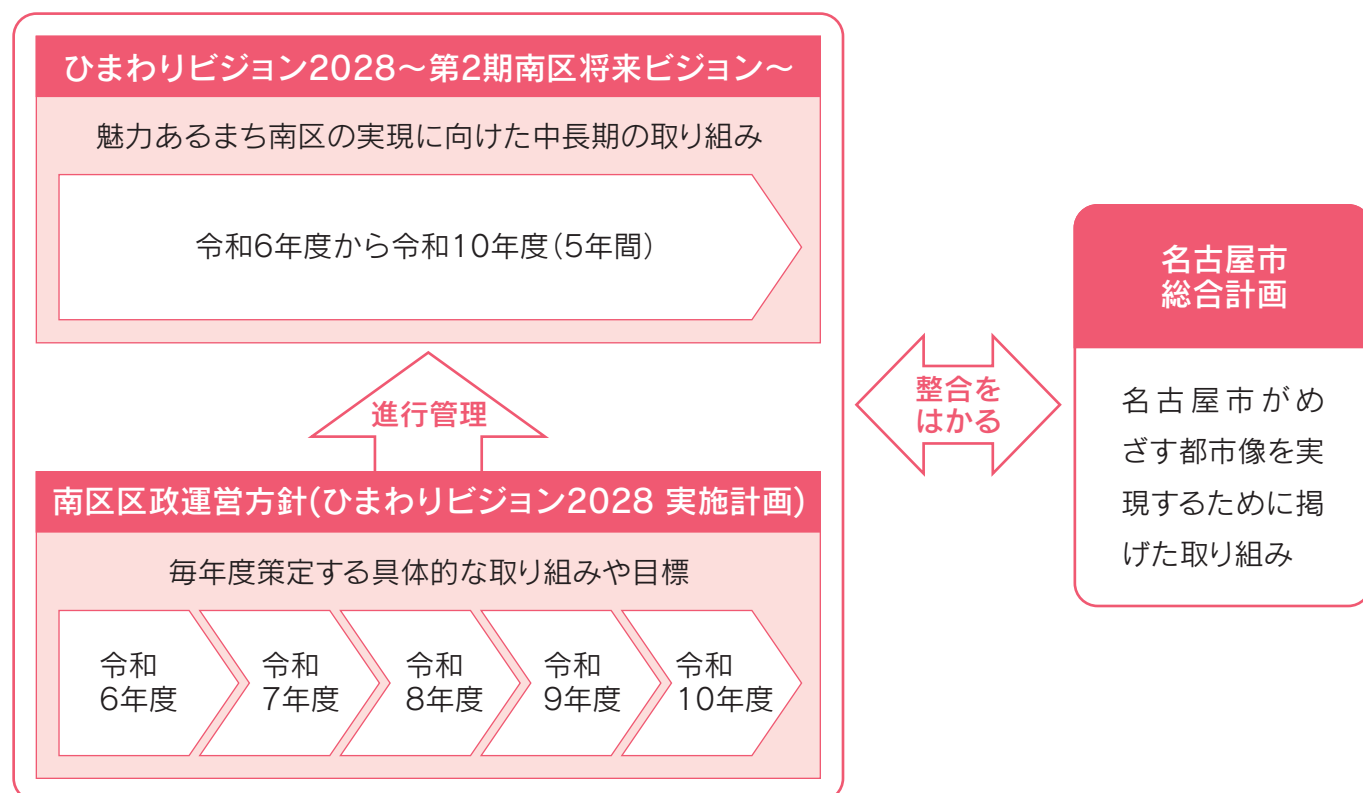
ひまわりビジョン2028とは、南区を取り巻く社会状況の変化を踏まえ、魅力あるまち南区の姿を明らかにし、その実現に向けた中長期の取り組みをまとめた南区の将来ビジョンです。

南区は、多くの歴史的資産を有するとともに、ものづくりが盛んなまちです。また、人口減少や少子高齢化が進んでいることや、南海トラフ地震が発生した際、川に挟まれた立地と低地が多くあることから津波や液状化の被害が懸念されるなど、様々な課題を抱えたまちでもあります。このような課題に対し、区民や地域、事業者の皆様、南区に関わる行政機関などが、将来に向け、どのように取り組んでいくかという方向性を、このビジョンでまとめています。

2 位置づけ

このビジョンは、「名古屋市総合計画」の個別計画に位置付けられ、計画期間は令和6年度から令和10年度までの5年間としています。

また、このビジョンに基づき実施する具体的な取り組みや目標については、毎年度策定する「区政運営方針（ひまわりビジョン2028実施計画）」にとりまとめ、ビジョン全体の進行管理を行うことで、魅力あるまち南区の実現に向けた取り組みを着実に推進していきます。



第2章 南区の概要



1 沿革と地勢

(1) 沿革

明治22年に市政が施行され名古屋市が誕生し、同41年には、南区はじめ、東、西、中の4区が創設されました。当時の南区の区域は、現在の熱田区、港区の区域を中心とした広大な区域でした。

大正10年には、呼続町や笠寺村が南区に編入され、現在の南区の基盤となりました。

昭和12年には、10区制が施行され、昭和・中川・港・熱田が南区から独立し、その後、一部の区域変更を経て、現在の南区となりました。

令和10年4月1日には、南区の誕生から120年となります。

地図でみる南区



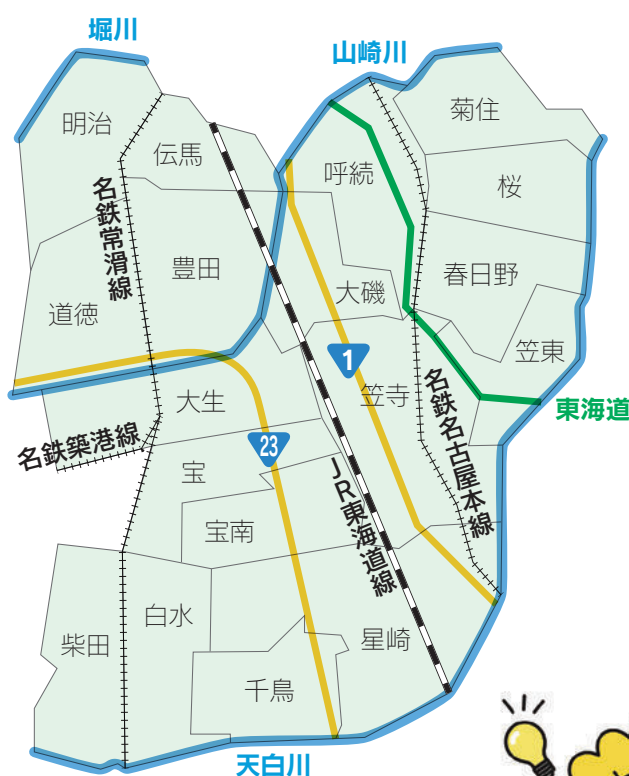
豊田町付近(昭和10年頃)



道德通付近(昭和40年頃)



要町付近(昭和51年頃)



笠寺一里塚(明治40年代)



北頭町付近(昭和49年頃)



(2) 地勢につながる歴史

南区は、名古屋市の南東部に位置し、西から堀川・山崎川・天白川の三河川に挟まれた、区域18.46平方キロメートルの立地になっています。

区の北東部は笠寺台地にあたり、台地上には、古くからの人々の暮らしがうかがえる痕跡が残っています。

また、南部から西部にかけては、浅い海を干拓してできた低地が広がっています。

江戸時代には、熱田宮の宿から鳴海宿に至る東海道が南区を通り、沿道の村々が街道とともに発達していきました。

産業では、昭和に入り軍需産業の中心となる重工業が南部臨海工業地帯を形成、急発展し、戦後には、鉄鋼・金属・機械・化学などの工場が立ちならぶ市内有数の工業地帯となり、ものづくりが盛んな地域となっています。

昭和34年9月26日、東海三県を襲った伊勢湾台風は、名古屋市に大きな被害をもたらし、特に、南区では、高潮によって流された名古屋港の貯木場の木材が住宅地を襲い、死者・行方不明者1,417人という甚大な被害をもたらしました。

伊勢湾台風をいつまでも忘れないために

南区には、伊勢湾台風を忘れないように、という思いからいくつもの記念碑が建てられ、地域の人々によって今も大切にされています。

また、南図書館には市内図書館で唯一の「伊勢湾台風資料室」があり、伊勢湾台風について調べることができます。



伊勢湾台風で被災した旧白水小学校分校
(現在の柴田小学校)



くつ塚(伊勢湾台風殉難者慰霊之碑)

伊勢湾台風後、2週間ほどたって水が引いた後に、多くの靴が取り残されました。人々の手によって集められた靴が山のように積まれるとともに、花や線香がそなえられ、いつしか「くつ塚」と呼ばれるようになりました。碑には、亡くなった人々の名前が刻まれています。

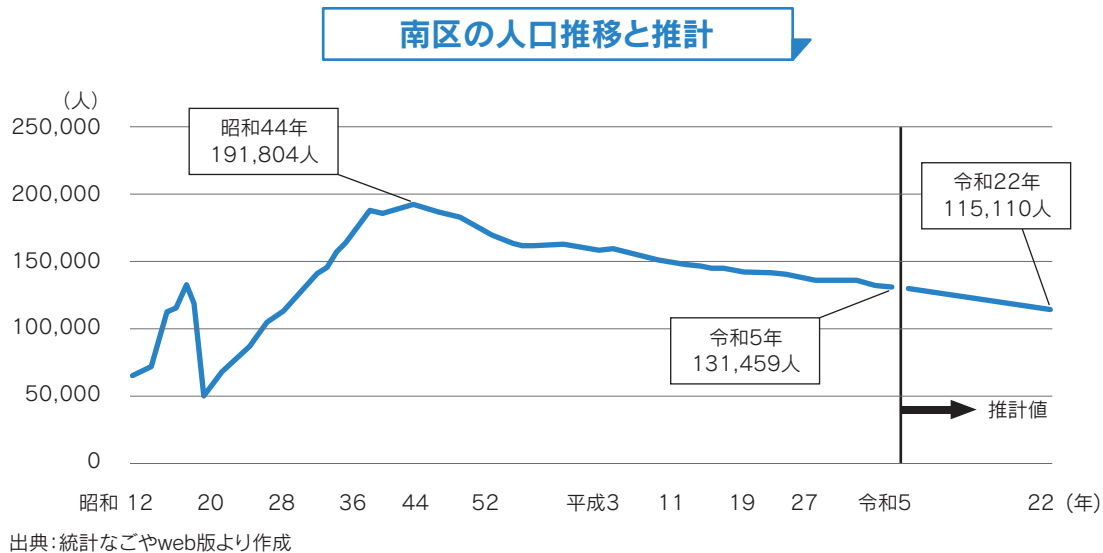
2 区を取り巻く状況と課題

(1) 人口・社会構造の変化

ア 人口減少の状況

南区には、令和5年10月1日現在で 63,061世帯、131,459人が暮らしています。

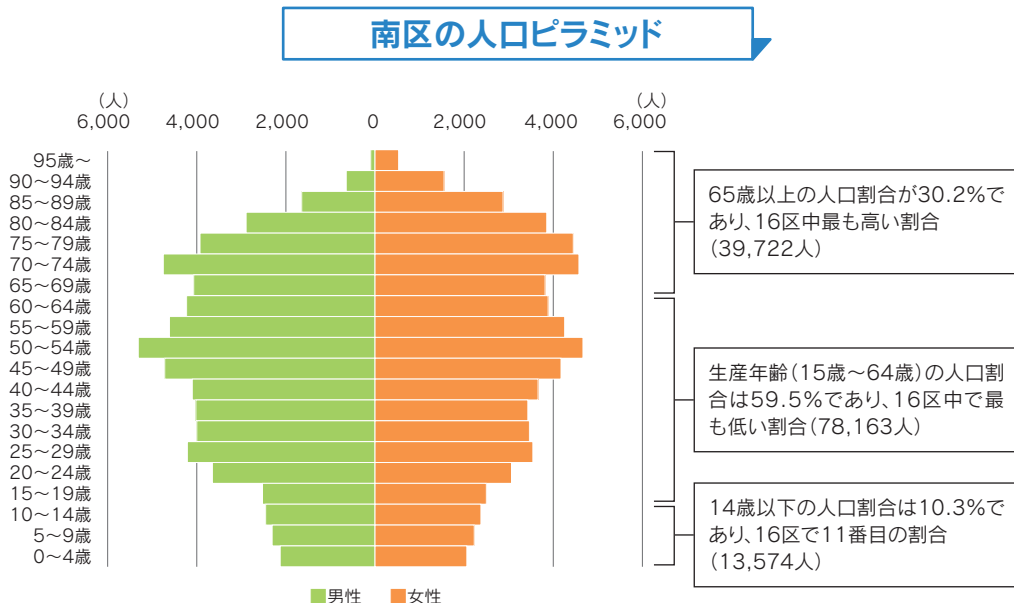
昭和44年をピークに人口減少が続いており、今後もこの傾向が続くと推計されています。



65歳以上の高齢者人口は39,722人で、区の人口の約3割を占める割合となっており、市内で最も高齢化率が高く、割合は年々増加傾向にあります。

一方、15歳未満の人口は13,574人で区の人口の約1割であり、市内で5番目に低い割合となっています。

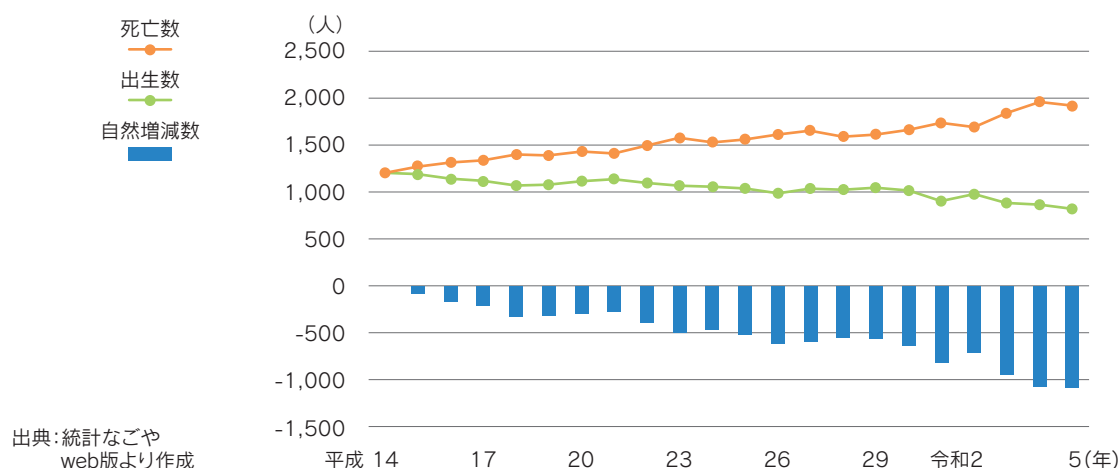
また、15歳から64歳の生産年齢人口は、78,163人で区の人口の約6割を占める割合となっていますが、市内で最も低い割合となっています。



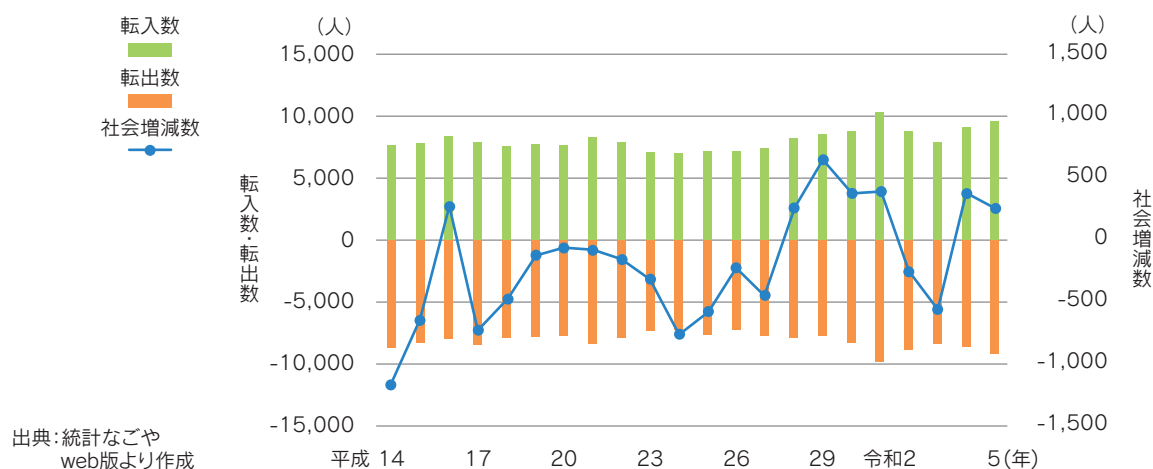
人口動態のうち、自然動態は出生数が減少傾向であり、死亡数が増加傾向で推移しているため、自然減が続いています。

一方、社会動態については、転出数が転入数を上回る社会減となる年が続いておりましたが、近年は社会増の傾向にあります。

南区の出生数、死亡数及び自然増減数の推移



南区の転入数、転出数及び社会増減数の推移



イ 人口減少が与える影響

(ア) 少子高齢化がもたらす社会的負担

南区では少子高齢化が進んでおり、高齢者人口の増加と生産年齢人口の減少が今後も進むものと思われます。このような状況のもとでは、経済活力の低下とともに、行政が担う福祉サービスなどの需要が増加し、社会の支え手の負担が増えることが懸念されます。また、ライフスタイルの多様化などを背景に家族構成が変化しており、子育て世帯や高齢者などへの支援の必要性が高まることが予想されます。社会の支え手を増やし、支援を必要とする人を支えていかなければなりません。

(イ) 地域コミュニティの衰退

地域コミュニティに関して、旧来的な地縁によるコミュニティ活動が志向されなくなってきており、さらに、追い打ちをかける形で高齢化等による担い手不足という問題が顕在化してきています。

(2) 災害等に対する危機管理

ア 地震

南海トラフを震源とする大規模な地震の発生が懸念されており、今後30年以内でマグニチュード8以上の地震が発生する確率は70%~80%（40年以内で90%程度）といわれています。大規模な地震が起こった場合には、本市においても甚大な人的、物的、経済的被害が想定されています。（令和6年1月1日時点）

南区のある南西部は国内最大のゼロメートル地帯に含まれており、津波や液状化の被害も懸念されます。

南海トラフ地震の被害想定(南区)

区分	防災対策※前	防災対策※後
死者数	最大約1,400人	約200人
建物倒壊・焼失	約11,000棟	約1,300棟

※防災対策

- 建物の耐震化率100%の達成
- 家具等の転倒・落下防止対策実施率100%達成
- 全員が発災後すぐに避難開始 など

出典：名古屋市防災危機管理局、南海トラフ巨大地震の被害想定について－人的被害・建物被害等－



家具転倒防止ボランティア

南区では甚大な被害が想定されていますが、一人ひとりが防災対策に取り組むことで、被害を大幅に軽減することができます。

イ 風水害

南区は、これまで伊勢湾台風や東海豪雨などの自然災害に見舞われ、多くの尊い命や貴重な財産を、自然災害の脅威の前に失ってきました。

南区は、堀川・山崎川・天白川の三河川に挟まれた立地となっていることから、浸水被害が懸念されており、高齢者や障害者、乳幼児のほか、妊産婦、傷病者、難病患者や日本語に不慣れな外国人など、災害時において必要な情報の把握や一人での避難が困難な要配慮者への対応も含め、地域や関係行政機関と連携した体制づくりが必要です。

ウ その他

令和2年以降、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により、経済はもとより、人々の生活は大きく変化しました。

南区においても感染症対策やワクチンの集団接種、各種行政サービスの遂行などに努めてきましたが、多くの混乱は避けられませんでした。

今後、想定外の災害級の事変が生じた際に、行政サービスを継続していく体制が求められます。

(3) 地域の特徴

南区には、見晴台遺跡をはじめとした遺跡が数多く存在し、笠寺観音（笠覆寺）や富部神社など歴史ある神社仏閣や旧東海道の笠寺一里塚といった史跡が残る、歴史あるまちです。

また、桜の棒の手や本地まつり、猩々（しょうじょう）など、古くから南区に伝わる文化が今も受け継がれています。

同時に、南区はものづくり企業が多く、製造業に従事する方の割合が高い地域であり、工業を専門学科にもつ高等学校や大学があるなど、ものづくりが盛んなまちとしても発展しています。

令和8年には、愛知・名古屋にてアジア・アジアパラ競技大会が開催されますが、日本ガイシスポーツプラザも競技会場となることが予定されているなど、南区はスポーツの拠点としての特色も持っています。

このような南区の様々な特色を生かし、区民が地域への誇りと愛着を持てるようなまちづくりを進める必要があります。

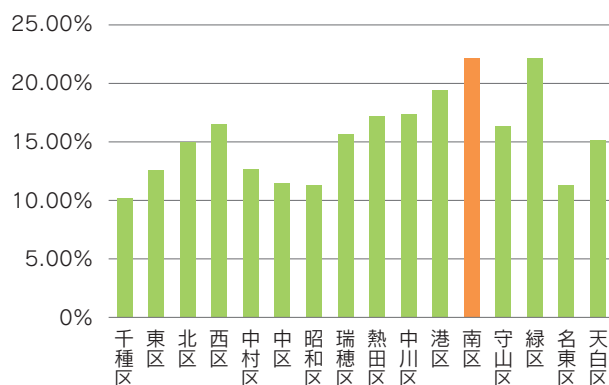


笠寺観音（笠覆寺）



富部神社

区別の製造業就業者数の割合



出典：令和2年度国勢調査の就業状態等基本集計結果より作成

アジア・アジアパラ競技大会と多様性を認め合うまちづくり

令和8年9月19日から10月24日まで、アジア最大のスポーツの祭典、アジア・アジアパラ競技大会が開催されます。

南区においても、日本ガイシスポーツプラザが体操や水球、ボッチャの競技会場として予定されており、アジアを代表するトップアスリートのパフォーマンスを間近で観ることができる貴重な機会になります。

また、大会の開催に伴い、様々な国籍の方や障害のある方が南区を訪れることから、性別や年齢、障害の有無、国籍などの多様性（ダイバーシティ）を尊重し、誰もが自分らしくいきいきと暮らすことができるまちづくりを進める必要があります。





1 基本方針

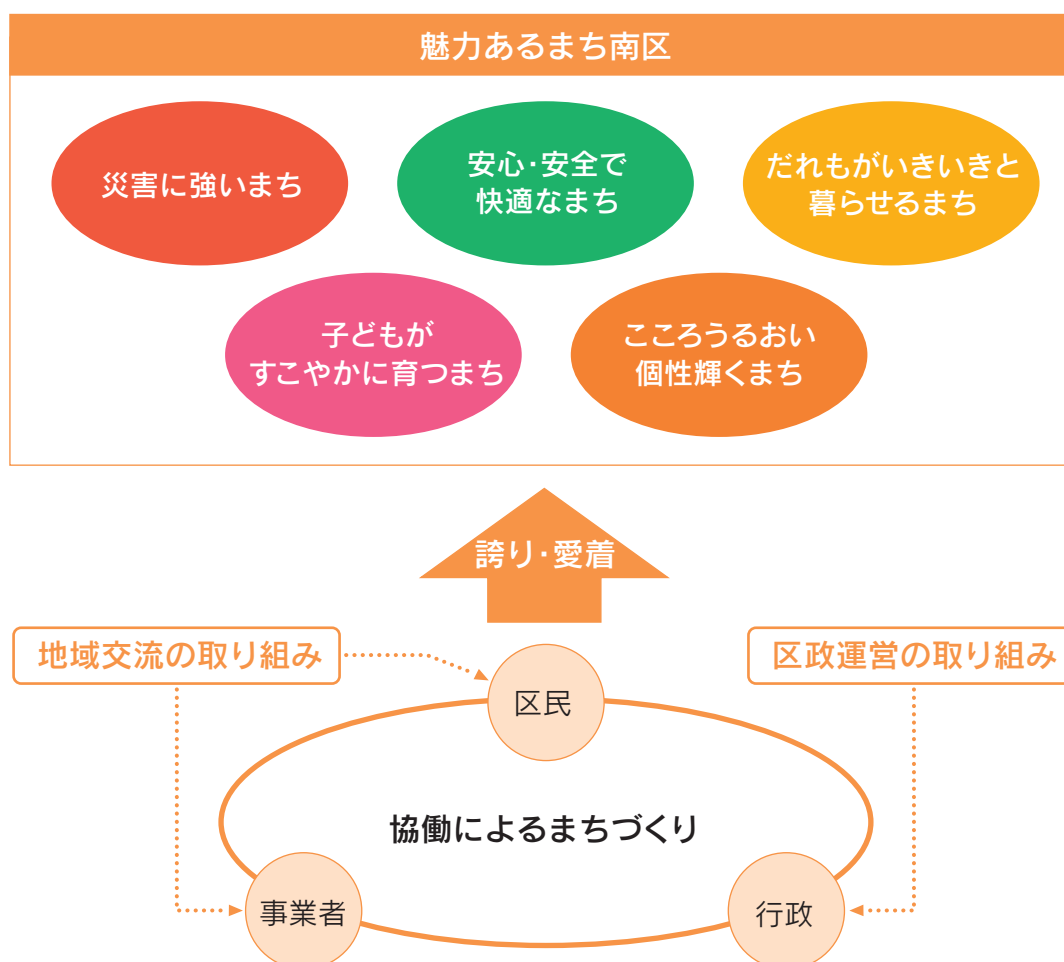
南区はこれまで、戦災や震災、そして多くの被害をもたらした伊勢湾台風や東海豪雨など、幾多の困難を地域の皆さまをはじめ多くの方々の励まし・助け合いなどで乗り越えてきました。この地域が大切に育ててきたふれあいや支え合いなどの人情深い心のあたたかさという特色を生かして、住みたい・住み続けたいと実感できる魅力あるまちとなるよう、区民・事業者・行政の協働をより一層推進し

『こころのかよう、あたたかいまち南区』

をめざしてまちづくりに取り組みます。

基本方針

『こころのかよう、あたたかいまち南区』



2 魅力あるまち南区

災害に強いまち

区民の防災意識の向上と防災に関わる人材の充実への取り組みを進めるとともに、支え合いの心をもった地域ぐるみの防災活動の活性化や防災体制の基盤強化への取り組みを進めることにより、すべての人が安心して暮らせる、災害に強いまちの実現をめざします。



安心・安全で快適なまち

安心・安全で快適な環境に関する地域の身近な課題について、区民、事業者及び行政がそれぞれの役割のもと、協働して取り組みを進めることにより、安心・安全で快適なまちの実現をめざします。



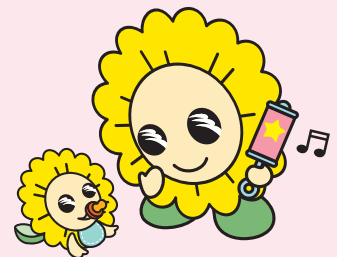
だれもがいいきと暮らせるまち

区民が生涯にわたり健康づくりに取り組み、生きがいを持って暮らせるよう支援するとともに、障害や認知症に対する理解を深め、地域ぐるみで支え合える、だれもがいいきと暮らせるまちの実現をめざします。



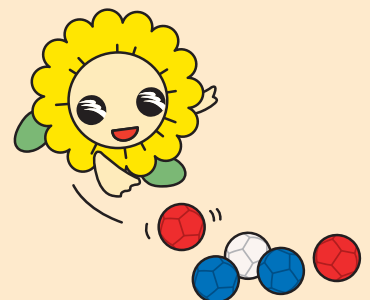
子どもがすこやかに育つまち

子どもや子育て家庭への支援、青少年の健全育成など、生まれる前から青少年期に至るまでの取り組みを進めるとともに、子どもが健やかに成長できるよう、子育て家庭・地域・事業者及び行政が連携しながら、子どもや子育て家庭に思いやりのあるやさしいまちの実現をめざします。



こころうおい個性輝くまち

南区の地域資源でもある歴史や文化、アジア・アジアパラ競技大会の会場ともなるスポーツの拠点など、南区の様々な特色を生かすとともに、区内各地域で区民が誇りと愛着を持って活発な地域活動ができるまちの実現をめざします。



3 地域交流・区政運営の取り組み

(1) 地域交流の取り組み

区民が地域に対する誇りや愛着を持つことで、人と人とのつながり、地域交流の機運が高まります。地域交流が盛んになることで、地域への関心が深まり、担い手としてまちの様々な課題に取り組むことが、まちの魅力向上につながると考えます。魅力あるまち南区の姿を実現するための基礎として、地域交流の取り組みを支援します。

(2) 区政運営の取り組み

区役所では、窓口サービスのより一層の向上や広報・広聴機能の充実に取り組むとともに、南区に関わる行政機関が一体となって、魅力あるまち南区の姿の実現に向けて区政運営を推進します。

また、区民に最も身近な行政機関として、職員一人ひとりが高い使命感と倫理観を持つとともに、業務上のリスクに対して組織として対応策を講じる内部統制の取り組みを含めて各種法令を遵守することにより、公平かつ公正な職務の確保に取り組めます。

SDGsが目指す社会

SDGs（Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標））は、国連が提唱する持続可能な開発のための目標で、貧困、不平等・格差、気候変動による影響など、世界のさまざまな問題を根本的に解決し、すべての人たちにとってより良い世界をつくるために設定された、世界共通の17の目標です。世代を超えたすべての国、すべての地域の人々が、誰一人取り残されることなく、尊重される社会を目指しています。

南区でもSDGsの理念を踏まえたまちづくりを進めていきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



第4章

魅力あるまち南区の実現に向けた取り組み



区 分		施 策		施策の展開
魅力あるまち南区	災害に強いまち	1	一人ひとりの防災意識を向上させ、防災人材の充実を図ります	● 防災情報の広報・啓発 ● 各家庭への防災対策の推進 ● 防災人材の充実・育成 ● 災害の伝承
		2	地域ぐるみの防災活動を活性化し、地域防災力の向上を図ります	● 地域防災活動の推進 ● 防災訓練の推進 ● 要配慮者への支援 ● 地域連携の強化
		3	防災体制の基盤を強化し、災害対応力の向上を図ります	● 区の防災機能の強化 ● 消防力の強化 ● 都市基盤の整備
	安心・安全で快適なまち	4	安心・安全な暮らしができるよう交通安全・防犯・防火活動に取り組みます	● 交通安全活動の推進 ● 防犯活動の推進 ● 防火活動の推進
		5	衛生的な環境を確保し、快適なまちづくりを進めます	● 環境にやさしくきれいなまちづくり ● 人と犬猫が共生できるまちづくり
	だれもがいきいきと暮らせるまち	6	だれもが健康で生きがいを持って暮らせる地域づくりを支援します	● 生きがい・健康づくりへの支援 ● 地域のつながり・ネットワークの推進
		7	障害や認知症への理解を深め、地域における支え合いを支援します	● 障害や認知症の理解促進と多様性を認め合える地域社会づくりの推進 ● 地域におけるささえあいの仕組みづくりの支援と包摂的な地域社会の推進
	子どもがすこやかに育つまち	8	子育ての悩みや不安を軽減し、子どもたちが安心、安全で健康に育つまちづくりを進めます	● 妊娠期からのきめ細やかな支援 ● 子育てを支援する地域ネットワークの強化 ● 子どもを虐待から守るまちづくりの推進
		9	青少年が明るくすこやかに育つまちづくりを推進します	● 青少年がすこやかに育つ取り組みの推進 ● 青少年健全育成に向けた地域ネットワークづくり
	こころうるおい個性輝くまち	10	地域の特色を生かした魅力向上と活発な地域活動等の促進を図ります	● 歴史や文化を生かした魅力の向上 ● 「ものづくりが盛んなまち」を生かした取り組みの充実 ● 地域の活性化に資する地域活動への支援
		11	スポーツを通じたまちの魅力向上と地域でのスポーツ活動を支援します	● アジア・アジアパラ競技大会の開催に合わせた運動・スポーツ機運の醸成 ● 地域資源を生かした区民の運動・スポーツ活動への参加意欲の促進 ● 生涯スポーツの推進
地域交流・区政運営の取り組み		12	区民の交流や地域の担い手づくりを支援し、地域の活性化を進めます	● 区民のふれあいや交流の推進 ● 地域コミュニティへの支援
		13	区民ニーズを的確に把握し、「こころのかよう、あたたかいまち」を実現する区政運営に努めます	● 信頼される「あたたかい」区役所づくり ● 広報・広聴の充実 ● 適正かつ確実な事務事業の執行

1

災害に強いまち

» 一人ひとりの防災意識を向上させ、防災人材の充実を図ります

現 状

- 令和5年度区民アンケートでは、区政に関して必要な情報や、特に力を入れてほしいと思う取り組みについて「防災」と答えた区民が一番多く、それぞれ58.0%、50.4%と高い割合になっています。
- 家具の転倒防止対策など各家庭の防災対策の意識づけや啓発を目的に、消防職員等による戸別訪問事業を令和元年度から順次実施しています。
- 若い世代の地域防災への関心・参画が少ないことや、災害対策委員や消防団員など地域の防災リーダー（防災活動を主導する人材）の高齢化、知識・経験の不足、人員不足などにより、災害時の地域におけるマンパワーや機動力の低下が懸念されます。
- 伊勢湾台風の記憶が風化することのないよう、小学生への冊子配布や図書館における資料の展示を通して、災害の記憶の継承に取り組んでいます。

課 題

- 命を守るために、ハザードマップ等により地域の災害リスクを知り、迅速かつ適切な避難行動がとれるようになることが必要です。
- 各家庭への防災対策の働きかけや、高齢者世帯など防災対策が困難な家庭に対する支援を行う必要があります。
- 防災を区全体で底上げしていくために、地域の防災リーダーとなりうる人材の育成・充足や、若い世代も取り込んだ地域防災の担い手の育成を進める必要があります。
- 伊勢湾台風や東海豪雨などの被災経験や記憶が風化してきており、区民の危機意識や災害対応力の低下が懸念されます。



出張防災教室



中学生と地域の防災活動を担う住民の交流

施策の展開

●防災情報の広報・啓発

さまざまな機会を通じて、わかりやすい防災に関する広報や啓発を行い、区民一人ひとりの関心、興味を高めることで防災意識の向上を図ります。

●各家庭への防災対策の推進

さまざまな地域の行事や会合に消防職員や消防団員が出向き、防災啓発を行うことで自助力の向上を図ります。また、各家庭の実情にあわせた防災啓発を進めるとともに、家具の転倒防止や地震火災への備えなど命を守る対策を推進します。

●防災人材の充実・育成

地域や事業者の防災リーダーに教養訓練や研修を実施し、防災人材の育成、普及を図るとともに、地域や事業者と連携し、さまざまな機会をとらえ地域防災の担い手や防災リーダーの充実強化に向けた啓発活動や募集広報を展開します。

●災害の伝承

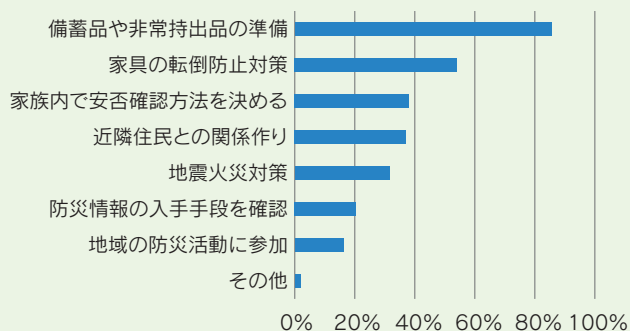
伊勢湾台風など過去の災害の記憶を未来へつなぐ取り組みを進めます。

成果指標	現状値 令和5(2023)年度	目標値 令和10(2028)年度
ハザードマップなどで、自宅の被害想定や避難場所を確認している区民の割合	76.5%	100%
備蓄品の準備や家具転倒防止対策など、災害に対する備えをしている区民の割合	62.0%	100%

災害の備えをしていますか？

南区では、約6割の方が家庭内において災害に対する備えをしています。一方、災害に対する備えができていない方のうち、約7割の方がその理由として「必要だと思っているが行動に移せていないから」と答えています。災害はいつ起こるかわかりませんので、災害を「自分事」として捉え、できることから災害に対する備えをしましょう。

災害に対してどのような備えをしていますか。



出典：令和5年度南区区民アンケート

現 状

- 新型コロナウイルス感染症の影響から、地域や事業者が主催する行事が減少したことにあわせ、自主防災組織（町内会単位）をはじめとした訓練の実施率も停滞しており、実践的な防災訓練の経験が不足しています。
- 南区は高齢化率が市内で最も高くなっていることに加え、区民に占める障害者手帳所持率が市内でも高くなっているなど、災害時に支援を必要とする要配慮者が多い状況です。
- 南区において、災害時に避難場所や資材、電力などの資源の提供を協力できる事業者との間で、地域防災協力事業所の覚書締結（138件）、津波避難ビルの指定（246か所）、災害時電源協力車の登録（80件）を行っています。（令和6年3月31日時点）

課 題

- 地域の防災・減災を実現していく上で、自主防災組織や事業所での訓練など、地域コミュニティのなかでの助け合いを推進していくことが重要です。
- 高齢者をはじめ、災害時に支援を必要とする要配慮者が増加していることから、地域・事業者・行政等が協力し、要配慮者への支援、対策を推進する必要があります。
- 地域コミュニティの一員であり、発災時の資源提供等において、地域の大きな力になる事業者と地域の支援協力体制の強化を推進する必要があります。

地域によって異なる災害の特性

気候変動の影響などによる自然災害の激甚化・頻発化により、ハザードマップが「想定し得る最大規模」の災害を想定したものに改定されました。災害によって被害想定は変わり、区内でも地域によって災害の特性が異なります。

ハザードマップや避難場所、地域の身近な防災情報等を掲載した「南区地域防災マップ」を用いて、お住まいの地域の災害リスクを確認し、ご家庭や地域の皆さんで災害の特性に応じた対策を考えていきましょう。



なごやハザードマップ防災ガイドブック

ハザード
マップは
こちらから



南区地域
防災マップは
こちらから



施策の展開

● 地域防災活動の推進

区役所、消防署が、地域とともに防災に関する話し合いを継続的に実施し、地域の特性に応じた防災活動へのきめ細やかな支援を実施します。

● 防災訓練の推進

学区防災訓練などの機会を利用し、指定避難所を円滑に開設運営できる体制強化を図るとともに、消防署や消防団が調整の窓口・支援者となり、町内会・自治会単位での実践的な自主防災活動を推進します。

また、自主防災組織、災害救助地区本部、避難所管理組織の各組織に対し、発災時の活動や組織間の連動をイメージした訓練の充実を図ります。

● 要配慮者への支援

地域と連携し、地域ごとの要配慮者の実情を踏まえた災害時の避難行動支援や避難生活支援等を推進します。

● 地域連携の強化

大規模災害時に避難場所や資材、電力の提供などを協力できる、地域防災協力事業所の覚書締結、津波避難ビルの指定、災害時電源協力車の登録を推進するとともに、地域・事業者・行政が円滑に協力できるよう日頃からの連携強化を図ります。

成果指標	現状値 令和5(2023)年度	目標値 令和10(2028)年度
自主防災活動を実施した町内会・自治会の割合	70.8%	100%
学区防災訓練において要配慮者対策に関する訓練を行った学区の数	10学区	18学区



自主防災組織での安否確認訓練



災害時における要配慮者への支援訓練

3

災害に強いまち

▶ 防災体制の基盤を強化し、災害対応力の向上を図ります

現 状

- 区災害対策本部運営訓練や防災研修などを実施し、災害時における職員の災害対応能力の向上や区災害対策本部の組織機能強化を進めています。
- 防災調整会議や連携訓練を実施し、災害時における関係機関との連携強化を進めています。
- 大規模災害時に同時多発が想定される火災や救助、救急事案に、持ちうる消防力を最大限に発揮できるよう、消防団を含めた消防体制や消防活動の強化を進めています。
- 災害による被害の防止・軽減を目指し、都市の防災基盤の整備を進めています。

課 題

- 迅速・適切な災害対応による被害の拡大防止のために、職員の災害対応力の向上や区災害対策本部の機能強化が求められています。
- 大規模災害時に、迅速な人命救助活動や復旧復興活動ができるよう、関係機関との連携体制の強化や活動能力の向上が必要です。
- 地震、風水害での同時多発災害に消防力を最大限発揮できるよう、消防署と消防団の機能強化を今後も進めていく必要があります。
- 災害に強いまちをめざし、都市基盤に対する着実な災害対策の推進が求められています。



区災害対策本部運営訓練



土砂災害危険箇所のパトロール

施策の展開

● 区の防災機能の強化

職員の災害対応力の向上や区災害対策本部機能の強化のために、大規模災害を想定した区災害対策本部運営の実践的な訓練や研修を継続的に実施します。

また、関係機関との連携強化や活動能力向上のために、大規模災害時に想定される様々な状況における訓練を実施するとともに、都市生活に不可欠なライフラインを維持するため、行政と民間事業者との連携強化を推進します。

● 消防力の強化

同時多発災害において、持ちうる消防力を最大限に発揮できるよう、消防署と消防団の機能強化を推進し、活動能力の向上を図ります。

また、消防署及び消防団の活動拠点や資機材の整備を進めるとともに、活動体制を強化することで、大規模災害時での消防力の強化の一層の推進を図ります。

● 都市基盤の整備

南海トラフ地震に備え、河川の地震・津波対策や配水管などの耐震対策を進めるとともに、大雨に備えた治水対策を推進します。

成果指標	現状値 令和5(2023)年度	目標値 令和10(2028)年度
災害に強いまちづくりができていると思う区民の割合	55.8%	63%

大規模地震・大雨に備えた河川の災害対策

南区は、山崎川や天白川などの河川が流れており、地震や津波、大雨に備えた対策が進められています。

山崎川においては堤防に2列の矢板を入れる鋼矢板二重締め切工法や、堤防を改良して強くする固化工法などを用いた堤防の耐震化が令和5年度に完了しました。また、天白川においても愛知県により堤防の耐震化事業が行われています。

この他にも、大規模地震時に有害物質を含む汚染土の露出・拡散を防止するための大江川埋立工事の実施や、浸水被害の軽減を目的とした名鉄名古屋本線山崎川橋りょうの改築を今後進めてまいります。



整備された山崎川堤防

4

安心・安全で快適なまち

➤ 安心・安全な暮らしができるよう交通安全・防犯・防火活動に取り組みます

現 状

- 南区の人身事故件数は525件（令和5年中）で、交通安全の啓発を行うも、なかなか減らない状況です。
- 南区の刑法犯認知件数は1,197件（令和5年中）となっています。
- 「振り込め詐欺」などの高齢者をターゲットとした特殊詐欺が多く発生しており、認知件数は37件、被害額は約4,700万円（令和5年中）となっています。
- 南区の建物火災発生件数は16件（令和5年中）で、うち9件が住宅火災となっています。また、火災による死者の多くが高齢者となっています。

課 題

- 区民一人ひとりが交通安全・防犯・防火に対する意識を高く持ち、交通事故・犯罪・火災が発生しないよう注意・行動する必要があります。
- 交通事故・犯罪・火災を抑止する環境づくりや自主的な交通安全・防犯・防火活動を支援する必要があります。
- 交通弱者である子どもや高齢者が交通事故に遭わないよう、対策を促進することが重要です。
- 特殊詐欺の被害者になりやすい高齢者が、手口や対策を知り、特殊詐欺に備えることが重要です。
- 住宅火災を減らす取り組みを進めるとともに、高齢者世帯への防火指導を行うことが重要です。



交通指導員による交通安全教室



夏の交通安全市民運動

施策の展開

●交通安全活動の推進

街頭での交通安全啓発キャンペーンをはじめ、交通弱者である子どもや高齢者が交通事故にあわないよう、地域や警察と協働し、保育園や幼稚園、小学校、地域などにおいて、交通安全教室や自転車安全教室などを実施します。

また、交通事故危険か所や通学路の安全を確保するために、路面標示等の整備を進めます。

●防犯活動の推進

特殊詐欺をはじめとした犯罪の発生状況の傾向を捉え、その犯罪の手口や対策の啓発活動を地域や警察と一体となり実施することで、地域の防犯意識を高め、犯罪被害防止を図ります。

●防火活動の推進

火災予防運動キャンペーンの実施や、高齢者世帯への戸別訪問による防火指導を継続します。

また、住宅火災の被害を減少し、火災による死傷者の発生を防止するため、住宅用火災警報器の設置とその適正な維持管理を促進します。

成果指標	現状値 令和5(2023)年度	目標値 令和10(2028)年度
犯罪が少なく安心して暮らせると思う区民の割合	69.6%	75%
高齢者世帯防火指導における住宅用火災警報器の設置率	86.2%	100%



振り込め詐欺被害防止キャンペーン



住宅用火災警報器の点検等の広報活動

現 状

- 環境学習を通して環境にやさしいライフスタイルへの転換を促しており、令和5年度区民アンケートでは、「環境に配慮した行動をとる区民の割合」は85.0%となっています。また、「ごみの分別などごみの減量に取り組んでいるまたは取り組みたいと思っている区民の割合」は81.6%となっています。
- 南区の令和5年度のごみの収集量は、22,000トン弱と近年減少傾向にあります。
- クリーンキャンペーンなど地域や関係機関と協力した清掃活動がおこなわれていますが、ごみの不法投棄やポイ捨てはなくなっていない状況です。
- 管理が適切でない空地や空家が一定程度存在しています。
- 令和5年度区民アンケートでは、43.3%の方が「近隣の犬猫について迷惑を感じている」と答えています。

課 題

- 区民一人ひとりが環境に配慮し、具体的に行動する必要があります。
- 区民一人ひとりが資源・ごみの分別区分のルールを理解し、分別を徹底することにより、より一層の資源化の推進を図り、無駄なく利活用することが重要です。
- 町を美しく保っていくため、区民や地域、事業者、行政などがそれぞれの立場で町の美化に配慮した行動に取り組むことが重要です。
- 管理が適切でない空地や空家に関する相談に対し、引き続きその所有者に適切な管理を促していくなど、関係機関が連携して対応していく必要があります。
- 人と犬猫が快適に共生できるまちをめざし、飼主などのマナー向上を進めるとともに、のら猫のこれ以上の繁殖を防止する必要があります。



環境デーなごや2023での環境クイズブース



飼主のマナーアップキャンペーン

施策の展開

●環境にやさしくきれいなまちづくり

環境保全に向けて、自然観察会・緑のカーテン栽培講座などの環境学習や、様々な機会をとらえた啓発活動に取り組むことで、環境にやさしいライフスタイルへの転換を促します。また、保健環境委員・地域住民と連携して3R※の啓発を進めるなど、持続可能な循環型社会の実現に取り組めます。

また、区民の自主的な清掃活動の支援や、不法投棄ごみなどへの対応を通して、きれいなまちづくりを進めるとともに、管理が適切でない空地や空家の所有者などに対し、関係機関が連携して適切な対応を促していきます。

●人と犬猫が共生できるまちづくり

犬猫の飼主などのマナー向上のための啓発活動を行います。また、のら猫対策として、避妊去勢手術に対する支援と地域ののら猫を適切に管理する「地域猫活動」に関する周知啓発を行います。

※3R「Reduce=リデュース（発生抑制）」「Reuse=リユース（再使用）」「Recycle=リサイクル（再生利用）」の3つの頭文字をとった言葉で、ごみ減量のために必要な取り組みを表す。

成果指標	現状値 令和5(2023)年度	目標値 令和10(2028)年度
環境に配慮した行動をとる区民の割合	85.0%	90%
近隣の犬猫について迷惑を感じている区民の割合	43.3%	35%



自然観察会での生物観察



緑のカーテン栽培講座

6

だれもがいきいきと暮らせるまち

❶ だれもが健康で生きがいを持って暮らせる地域づくりを支援します

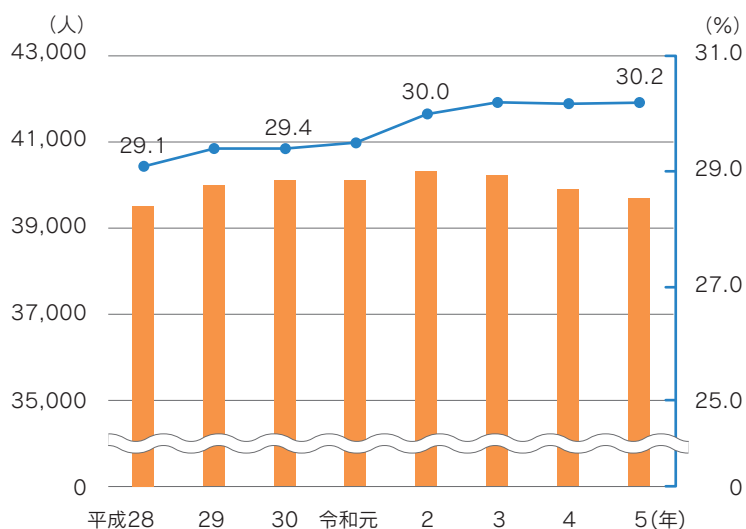
現 状

- 南区は高齢化率が市内で最も高く30.2%となっているとともに、高齢者のみ世帯の割合が市内でも高い割合となっています。（令和5年10月1日時点）
- 高齢者の居場所となっている高齢者サロン等の役割は重要であり、サロンの開催回数や開催場所を増やすなど拡充していくことが望まれています。また、老人クラブへの加入数が減少の一途をたどっており、直近5年間で約30%減少しています。
- 健康と暮らしの調査2022では、高齢者の生活機能低下者の割合やうつ傾向の割合が市内で高い傾向にあります。

課 題

- 高齢者等が孤立せず生きがいをもって暮らせるようにすることが大切です。
- 高齢者の孤立を防止するため、地域で高齢者を見守る体制づくりが重要です。
- 区民が生涯にわたり自発的かつ継続的な健康づくり活動ができるよう、運動の習慣化が定着しやすい環境づくりが求められています。

南区の高齢者数と高齢者割合



出典：統計なごやWeb版より作成



老人クラブの活動



施策の展開

● 生きがい・健康づくりへの支援

区民がいつまでも住み慣れた地域で健康で自立した生活を送ることができるよう、関係機関と協力しながら、世代を超えて参加できる健康づくりや介護予防に関わるイベント等を開催し、普及啓発に努め、高齢者や働き盛り世代、若者に向けた支援を行います。

また、生涯にわたり、生きがいをもって暮らせるように、文化・芸術やスポーツなどに取り組める機会の創出を支援します。

● 地域のつながり・ネットワークの推進

誰もがいきいきと過ごし、活躍できるように、健康づくりに関する自主グループや老人クラブ、地域のサロン等の活動の支援を行い、地域のつながりやネットワークの構築を推進します。

また、子どもから高齢者まで様々な世代が交流できる地域での活動及びその活動を支える方々を支援するとともに、高齢者の孤立等を防止するため、関係機関との連携を強化し、地域で見守る体制づくりを進めます。

成果指標	現状値 令和5(2023)年度	目標値 令和10(2028)年度
自主的にスポーツ・生涯学習・文化活動に取り組んでいる区民の割合	23.7%	29%
生きがいや楽しみを持って生活している区民の割合	75.6%	81%

「スマイル百歳体操」で健康づくりをしませんか？

市内で最も高齢化率が高い南区では、介護予防や健康寿命の延伸を目的に、区民と協働で「スマイル百歳体操」(南区オリジナル体操「スマイル体操みなみ」と筋力アップを目指す「いきいき百歳体操」)を作成し、身近な場所や地域で自主的に実施できるよう、リーフレットやDVDを活用して普及啓発等を行っています。

「スマイル体操みなみ」では、笠寺観音にちなんだ動きなどが取り入れられており、南区民が親しみやすい体操となっています。



スマイル体操
みなみの動画
はこちらから



現 状

- 南区は、障害者手帳の所持率や認知症自立度*Ⅱ以上の方の割合が、ともに市内で高い割合となっています。
- 障害や認知症のある方など、支援を必要とする方やその家族の相談窓口として、いきいき支援センターはじめ各種の相談機関がありますが、従来の支援体制では対応が困難で複雑要因を抱える方や社会から孤立し必要な情報や支援を受けていない方がいます。
- 障害や認知症のある方とその家族同士の交流はあるものの、当事者以外との交流は少ない状況です。

※認知症自立度：認知症の程度を踏まえた日常生活自立度の程度を表すもの。認知症自立度Ⅱ以上は、日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが見られる。

課 題

- 障害や認知症、生活困窮などの複合的要因を抱える方を支援するには、関係機関の密な連携による支援やアウトリーチ等による継続的な支援ができる体制を整える必要があります。
- 障害や認知症のある方が安心して暮らせる地域社会をつくるため、区民が障害や認知症に対する理解を深めるとともに、様々な方が交流できる機会の充実を図る必要があります。

授産製品販売コーナー「ひまわり横丁」

障害のある方々が製造・生産した商品（授産製品）を販売するコーナー「ひまわり横丁」を区役所1階ロビーで実施しています。

日替わりで、手作り雑貨やパン、焼き菓子などを販売していますので、南区役所にお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

開催日程などの
ひまわり横丁の
詳細はこちらから



施策の展開

● 障害や認知症の理解促進と多様性を認め合える地域社会づくりの推進

障害や認知症に関する理解促進と誰もが人格と個性を尊重し合い共生できる多様性に満ちた地域社会の実現を目指し、情報発信に努めます。

また、支援を必要とする当事者や当事者を取り巻く方が必要な相談や支援を受けることができるように、支援機関の周知に努めます。

● 地域におけるささえあいの仕組みづくりの支援と包摂的な地域社会の推進

障害の有無等に関わらず誰もが孤立しないで自分らしく暮らせるよう、地域におけるささえあいの仕組みづくりを推進するとともに、障害や認知症があっても安心して暮らすことができる地域社会を目指し啓発に努め、当事者や当事者を取り巻く方たちと地域の方が交流できる機会の充実に努めます。

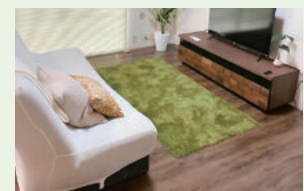
また、様々な支援機関が連携できるよう重層的支援体制を推進するとともに、必要とする福祉施策につながっていない方に対し支援が届くよう努めます。

成果指標	現状値 令和5(2023)年度	目標値 令和10(2028)年度
障害や認知症のある方が暮らしやすいまちだと思う区民の割合	53.5%	59%
認知症サポーター養成講座受講者数 (累計)	10,907人	13,000人

重層的支援体制～複雑化・複合化した支援ニーズへの対応～

南区は、高齢化率の高さに加え、65歳以上の介護保険被保険者の要支援・要介護者数の比率や障害者（身体・知的・精神）手帳の所持者の比率が市内で高い割合になっているなど、支援を必要とする住民が多い区です。

そのため、80代の親が50代の引きこもりの子どもの生活を支える「8050問題」をはじめとした、介護、障害、子ども、生活困窮といった分野別の支援体制では対応しきれないような「地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズ」に対応し、包括的な支援を行うため、既存の相談支援や地域づくり支援の取り組みを生かして、「対象を問わない相談支援」、「社会参加に向けた支援」、「地域づくりに向けた支援」を一体的に実施する重層的支援体制の構築に取り組んでいます。



つながりづくりの拠点
「たからる～む」



多機関による
ケース検討

8

子どもがすこやかに育つまち

➤ 子育ての悩みや不安を軽減し、子どもたちが安心、安全で健康に育つまちづくりをすすめます

現 状

- 少子化が進む一方、継続的な支援が必要な乳幼児等の割合は増加しています。
- 保育所等利用待機児童数※は、南区では平成26年度以降発生していません。
- 南区の外国人人口比率は5.3%で、市4.0%より高くなっています。また、外国人総数に対する5歳以下の子どもの割合は市内でも高い割合となっています。（令和5年10月1日時点）
- 南区においても、多くの児童虐待に関する通告・相談があります。

※保育所等利用待機児童数：国の調査要領に基づく除外児童数を除いた保育所等の待機児童数

課 題

- 安心して子育てができるよう、妊娠・出産期から切れ目のない支援を行う必要があります。
- 保護者の状況や個別ニーズに応じた保育サービスなどにつなぐことができるよう、情報提供や案内を継続する必要があります。
- 多様な家庭環境にある子どもやその保護者が地域の中で孤立しないよう、身近な場所に相談や情報交換できる場があり、そこにつながるができる仕組みを構築する必要があります。
- 子どもを虐待から守るため、虐待の発生予防・早期発見・早期対応ができるよう、地域や関係機関との連携を密にする必要があります。

児童相談所虐待対応ダイヤル「189」

虐待かと思った時などに、すぐにお近くの児童相談所に通告・相談ができる全国共通の電話番号です。匿名でかけることもできますので、少しでも虐待の可能性を感じたら、迷わずに連絡をしましょう。



施策の展開

● 妊娠期からのきめ細やかな支援

安心して子育てができるように、ライフステージに応じた子育てに関する相談窓口やイベントを通じて、切れ目ない支援を行います。

また、子育て家庭のニーズに応じた制度やサービスを広報・SNS等で情報発信するとともに、地域での啓発活動を積極的に進めます。

● 子育てを支援する地域ネットワークの強化

多様な家庭環境にある子育て世帯が地域で孤立しないよう、ニーズに合わせた交流を通じて、相談につながる仕組みや環境づくりを推進します。

また、地域や子育て支援機関と協力して、地域での見守りや地域のネットワークを強化し、安心して子育てできるまちづくりを推進します。

● 子どもを虐待から守るまちづくりの推進

児童虐待の発生予防のための啓発活動を行うとともに、相談窓口を広く周知し、児童虐待の早期発見・早期対応に繋げ、地域全体で見守る体制づくりや子ども・保護者への支援を推進します。

また、児童虐待に関する相談・通告に対して、迅速かつ適切に対応します。

成果指標	現状値 令和5(2023)年度	目標値 令和10(2028)年度
子育てしやすいまちだと思う区民の割合	66.0%	71%
児童虐待の通告先(児童相談所・区役所・189等)を知っている区民の割合	38.8%	44%



わくわく子育てまつり



出張子育てサロン「みつばち」

9

子どもがすこやかに育つまち

» 青少年が明るくすこやかに育つまちづくりを推進します

現 状

- 地域のつながりの希薄化により、年齢の異なる子ども同士の交流や大人と接する機会が減少傾向にあるため、青少年が将来について考えるきっかけや地域で活躍する機会が減っています。
- 生活・社会環境から様々な影響を受け、将来への不安や悩みを抱える青少年がトラブルに巻き込まれることがあります。
- 自分自身を守る行動がとれずに望まない妊娠をしてしまうなど、困難を抱える青少年がいます。

課 題

- 地域での交流やつながりの希薄化を防ぎ、青少年が活躍できる機会を増やし、将来を考えるきっかけづくりへの支援を行う必要があります。
- 青少年が安全に地域で暮らせるように、地域や企業等が青少年健全育成に向けて見守りの体制づくりや活動を継続する必要があります。
- 青少年自身が自分の身を守る知識を得ることができる機会や、悩みや不安などを抱える青少年とその保護者が周囲の方や相談機関に相談できる環境を整える必要があります。



親子で参加するボッチャ体験教室



冬の青少年をまもる運動での啓発活動

施策の展開

● 青少年がすこやかに育つ取り組みの推進

青少年が活躍できる地域を目指し、教育機関や関係団体、企業等と協力して、青少年が将来を考え、好きなことを発見するきっかけづくりを推進します。

また、青少年が様々な世代の方と交流等を行うことで、自らの居場所を見つけたり、社会性を身に付けながら様々な経験を積むことができるように支援するとともに、悩みや不安を抱える青少年やその保護者等が安心できるように、正しい知識の普及や青少年に関する相談窓口の周知・啓発を行います。

● 青少年健全育成に向けた地域ネットワークづくり

地域や関係機関と連携し、地域全体での見守り体制・ネットワークを充実させ、安心して暮らせる地域を目指し、必要な制度やサービスにつながるよう青少年に寄り添える環境づくりを進めます。

成果指標	現状値 令和5(2023)年度	目標値 令和10(2028)年度
青少年を地域で見守る体制ができていると思う区民の割合	42.8%	48%



思春期セミナーでの赤ちゃんのお世話体験



現 状

- 笠寺観音（笠覆寺）や旧東海道の笠寺一里塚、見晴台遺跡など、様々な史跡、遺跡が残る歴史あるまちであるとともに、桜の棒の手や本地まつりなど、古くから南区に伝わる文化が今も受け継がれています。
- 戦前戦後を通じ、鉄鋼や機械、化学などの工場が立ちならぶ市内有数の工業地帯として大きく発展して以来、ものづくりが盛んなまちです。
- 区民まつりはじめ、区民を中心に地域への誇りと愛着を持った取り組みが行われています。また、あまり知られていない南区の魅力を内包しながら活動する区民が点在しています。

課 題

- 地域に根付く歴史的資産を区民の誇りや愛着に結びつけるため、歴史や文化に触れ、親しむ新たな機会を創出する必要があります。
- ものづくり企業が多いという南区の特色を生かし、企業等の協力を得ながら、「ものづくりが盛んなまち」としての魅力向上を図る必要があります。
- 区民が南区により一層の誇りや愛着が持てるよう、地域における様々な取り組みを南区の新たな魅力と位置づけ、様々な広報媒体で広く情報提供し、自主的な参加を促すことが必要です。



桜棒の手保存会による演舞



名古屋工科高校と連携したものづくり体験

施策の展開

●歴史や文化を生かした魅力の向上

歴史や文化など、南区に根付く魅力資源を生かした取り組みを通じ、老若男女問わず日頃から南区の歴史・文化に親しみ、地元の魅力を再認識する機会を提供することで、区民の地域に対する愛着心の向上を図ります。

●「ものづくりが盛んなまち」を生かした取り組みの充実

ものづくり企業とタイアップした取り組みや、大学や高校などと連携した、若者がものづくりに対して興味や関心を持ってもらう取り組みにより、この地が育んだものづくりマインドを一層醸成し、まちの特性を生かした魅力向上を図ります。

●地域の活性化に資する地域活動への支援

区民まつりやサウスウインドオーケストラなど、区民が主体となり、地域や世代を超え、南区を盛り上げ活性化に資する取り組みを支援するとともに、誰もが文化芸術に親しむことができる場や文化芸術を通じ区民がつながり交流できる場を提供することで、まちの活性化を図ります。

成果指標	現状値 令和5(2023)年度	目標値 令和10(2028)年度
まちの様々な魅力を通じて、地域に愛着を感じている区民の割合	79.3%	85%
過去5年以内に地域の行事や祭りなどへ出かけたことがある区民の割合	51.5%	57%

世代を超え、地域でつながる音楽会

サウス ウインド オーケストラ

～South Wind Orchestra (SWO)～

南区では、南区を拠点として活動する吹奏楽団や吹奏楽に力を入れている高等学校があるなど、吹奏楽が盛んな地域であることを生かし、小中学生とみなみシニア吹奏楽団の有志による吹奏楽団「South Wind Orchestra (SWO)」の活動を行っています。

「地域に支えられ」「地域に根差した」「息の長い」吹奏楽団を目指して、南区民まつりをはじめ地域のイベントなどにも出演し、南区を盛り上げていきます。



現 状

- 令和8年にアジア・アジアパラ競技大会が愛知・名古屋で開催されます。
- 南区の中心部にある大規模なスポーツ施設「日本ガイシスポーツプラザ」が、地域のスポーツ拠点として多くの方に利用されています。
- 区内では、歴史と輝かしい実績のあるハンドボールチーム（大同特殊鋼フェニックス）やBMXのプロライダーなどが活躍しています。
- 各種競技団体の活動や、グループで身近な場所に集まって行う運動など、区内各所で運動・スポーツ活動が行われています。

課 題

- アジア・アジアパラ競技大会の開催に合わせ、トップアスリートの活躍を目の当たりにすることを契機とした運動・スポーツ活動の機運醸成を図ることが重要です。
- より多くの区民が日常的に運動・スポーツを行えるよう、区内各所で実施される運動・スポーツに関する取り組みを広く周知するとともに、地域のスポーツ拠点である日本ガイシスポーツプラザとの連携により、地域の運動・スポーツ実施の際に指導員を派遣するなど支援することで、区民の運動・スポーツへの参加意欲を高めることが重要です。
- 実績があるスポーツチームなど、南区を中心に活躍するアスリートとの連携により、区民の運動・スポーツ活動に対する意識を高めることが重要です。

モルテンバスケットボールパーク「Baspa(バスパ)」

道徳公園の屋外バスケットボール場「モルテンバスケットボールパーク」が令和5年11月にリニューアルオープンし、屋外のバスケットボール場として日本最大級の規模（2,400平米）となりました。

Baspa（バスパ）は、道徳学区連絡協議会の皆さまにより管理運営がされています。運営費はスポンサー企業の協賛金などで賄われており、ICTを活用した入退管理システムも導入しています。



施策の展開

●アジア・アジアパラ競技大会の開催に合わせた運動・スポーツ機運の醸成

アジア・アジアパラ競技大会の開催を通し、運動・スポーツ活動の機運醸成を図ることで、地域の一体感が高まり、活力に満ちたまちを実現します。

●地域資源を生かした区民の運動・スポーツ活動への参加意欲の促進

南区で活躍するトップアスリートと連携した取り組みにより、区民の運動・スポーツ活動の機運醸成を図るとともに、地域スポーツの拠点である日本ガイシスポーツプラザはじめ、区内各所で実施される運動・スポーツ活動を支援することで、区民の参加意欲を促進し、活気あるまちを実現します。

●生涯スポーツの推進

すべての方がその適性や関心に応じて、楽しみながら、日常的・自発的に身体活動を含むスポーツに継続して親しむことで、生涯にわたって健康でいきいきと過ごすための心身を育みます。

成果指標	現状値 令和5(2023)年度	目標値 令和10(2028)年度
週1回以上の頻度で、運動・スポーツを行っている区民の割合	38.7%	70%



南区民まつりで披露されたBMXショー



南区民まつりのボッチャ大会

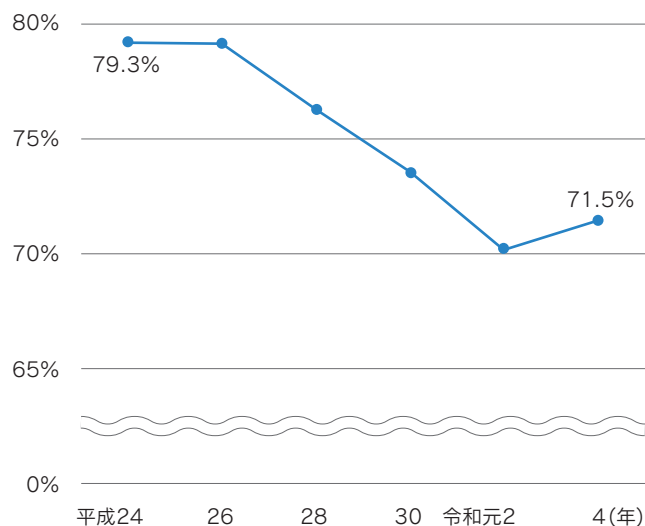
現 状

- 区民同士のふれあいと交流の場として、昭和59年から区民まつりを毎年開催しています。
- 南区の町内会加入率は、減少傾向となっています。
- 南区の外国人人口比率は5.3%と市内で3番目に高い割合となっています。（令和5年10月1日時点）
- 町内会の他、ボランティアやNPOなど、様々な団体が地域活動を行っています。

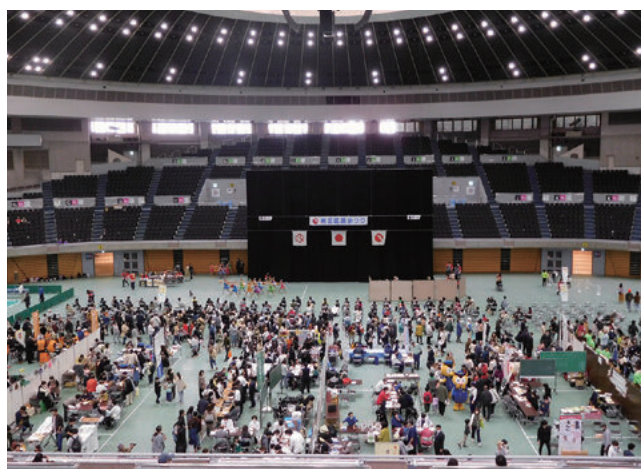
課 題

- 区民同士がふれあい、交流できる場として、区民まつりを開催していますが、令和5年度区民アンケートの結果では、これまでに参加したことのある人は31.0%となっています。
- 令和4年4月1日時点の町内会の加入率は71.5%となっており、10年前に比べ7.8ポイント低下しています。
- 少子高齢化、人口減少等にもとない、町内会会員の高齢化が進んでおり、若い世代の担い手が不足しています。
- 文化や習慣の異なる外国人住民が円滑に地域で暮らすことができるよう支援が必要です。
- 地域として対応すべき課題が複雑化する中、町内会だけでなく、ボランティアやNPOなどが行う地域活動の重要性がさらに高まっています。

南区の町内会加入率の推移



出典：学区別生活環境指標より作成



南区民まつり

施策の展開

● 区民のふれあいや交流の推進

地域の特性を活かした、若年層を含む様々な世代のふれあいの機会を創出するなど、区民の交流の活性化を図ります。

特に区民まつりについては、属性によらず誰もが行ってみたいと思えるものを目指し、地域コミュニティや地元企業、教育機関等と連携し、地元に愛着の持てるイベントとします。

● 地域コミュニティへの支援

町内会のほか、NPOやボランティアなどが行っている地域活動を広く区民に周知し、地域コミュニティの意義や重要性に対する理解を深めることで、区全体の地域活動の輪を広げていきます。

また、担い手不足の課題や外国人住民が地域で暮らすうえでの困りごとなどの地域課題の解決に向けて、地域活動を支援するコミュニティサポーターの派遣や関係機関との連携により支援していきます。

成果指標	現状値 令和5(2023)年度	目標値 令和10(2028)年度
区民まつりに行ってみたいと思う区民の割合	43.7%	50%
地域活動に参加している区民の割合	38.3%	44%

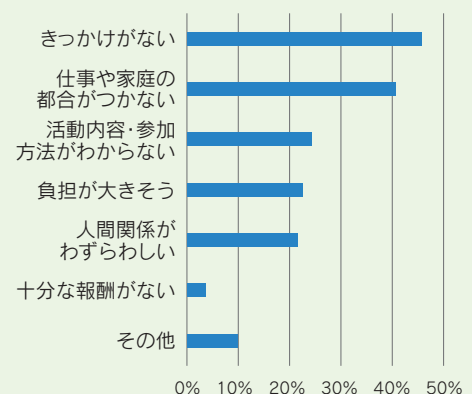
あなたは、地域活動に参加していますか？

「あなたは、地域活動に参加していますか？」と令和5年度区民アンケートで尋ねたところ、回答の約6割の方が「いいえ」でした。また、その理由として「きっかけがない」「仕事や家庭の都合がつかない」を多くの方が選択しています。

私たちの身近で起こる子どもを狙った犯罪や事故、高齢者の孤独死などの中には、地域の見守りや支え合いがあれば防げるものもあります。

すき間時間を活用するなど、一人ひとりが無理のない範囲でできることから地域活動に関わりを持つことが、安心して暮らせるまちにつながる第一歩になります。

地域活動に参加していない理由は何ですか。



出典：令和5年度区民アンケート

現 状

- 令和5年度に実施した窓口利用者へのアンケートでは、回答者の98.2%が職員の対応に満足と回答しています。
- 令和5年度区民アンケートの結果、南区政に関して知りたいと思う情報が十分得られていないと思う人の割合が53.2%と半数を超えています。
- ひまわり会議（区民会議）やアンケート調査、また、職員が地域行事に参加するなど様々な機会を通して区民からの意見や要望を聴取しています。
- 市役所DX（デジタルトランスフォーメーション）推進方針に基づき、区役所DXを推進しています。
- 市民本位・地域主体の市政運営及び持続可能な行財政運営などの全庁的な取り組みに基づき、個人情報保護制度の適切な運用を始めとする公正かつ透明性の高い行政サービスの提供を目指しています。

課 題

- 区民ニーズが多様化しており、高い満足度を維持するためには、さらなる職員の資質の向上や窓口環境の整備に取り組む必要があります。
- 区民が行政に関して知りたいと思う情報が十分に得られるよう、様々な手法や機会を活用して広報することが必要です。
- 幅広い年代から意見聴取をする機会を積極的に設け、いただいた意見や要望を適切に区政運営に反映していくことが重要です。
- 区民の利便性を高めるために、区役所DXをさらに推進する必要があります。
- 区民の信頼を得るためには、個人情報や公金の適正管理だけでなく、すべての職務において、職員一人ひとりの適正かつ確実な事務執行が必要です。



ウェブサイト
はこちらから



Instagram
はこちらから



LINEセグメント
配信はこちらから





施策の展開

●信頼される「あたたかい」区役所づくり

来庁者が相談しやすく、来てよかったと「あたたかい」気持ちになれる窓口を実現するため、一人ひとりによりそった、わかりやすい説明と丁寧な対応ができるよう、職員の資質向上を図ります。

また、ユニバーサルデザインやDX推進によるスマート窓口を取り入れ、利便性の高い窓口や庁舎の環境改善等に取り組むとともに、フロアサービスの充実など、デジタルに不慣れな方もその利便性を実感できるよう支援するなど、区民と行政がより円滑にコミュニケーションをとれるように努めます。

●広報・広聴の充実

広報なごや南区版や市公式ウェブサイト南区ページのほか、LINEやInstagram、YouTubeといったSNS等、様々な媒体を活用し、魅力的なコンテンツを作成するなど、区民の知りたい情報の発信に努めます。

また、ひまわり会議（区民会議）のほか、学区を担当する職員を決め、職員が直接地域に出向いて区民の声を聴くなど、幅広い世代のニーズを把握し「こころのかよう、あたたかいまち」を実現する区政運営に取り組みます。

●適正かつ確実な事務事業の執行

職員一人ひとりが、高い使命感と倫理観を持ち、法令を遵守し、公平かつ公正に職務を遂行し、確実な事務事業の執行に努めます。

また、全庁的な組織改正による新たな体制によって、組織の柔軟性、機動力、レジリエンス（困難を乗り越える力）を高めるなど、効率的な組織運営に努めるとともに、組織全体の将来を見据えた計画的な人材育成に取り組み、さらなる組織力の強化を図ります。

成果指標	現状値 令和5(2023)年度	目標値 令和10(2028)年度
区の情報提供に対して満足と感じている区民の割合	51.0%	56%
南区に住み続けたいと思う区民の割合	81.3%	87%

区のシンボルマーク



南区政80周年（昭和63年）を記念し、一般公募の作品の中から選ばれたマークです。

中国から伝わる古典「莊子」の図南鵬翼（大事業を成そうとする計画や志）の意から、ミナミの「ミ」を、調和・団結・発展の3本の白線が未来に向け飛翔する姿で表し、地色は四神のうち南の方角を守る朱雀と区民の情熱を意味する赤色でデザインされています。

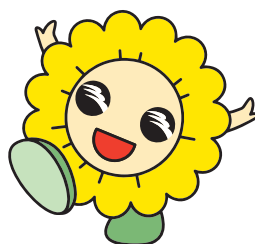
区の花 / ヒマワリ

ヒマワリの属名ヘリアンツスは、太陽の花という意味を持ち、太陽をイメージさせる南区の花にふさわしいという



ことで、8種類の候補の花から、区民の皆さんの応募により選ばれました。

区のマスコットキャラクター/Mioo(ミオー)



南区制100周年（平成20年）記念事業のキャラクターとして「Minami」の「Mi」と100周年の「100」を

掛け合わせた「Mioo」が登場、現在は南区のイメージキャラクターとして活躍中です。好奇心いっぱいの「お花の妖精の子ども」、瞳は南区のシンボルマークになっています。

区の木/クスノキ(楠)

文字どおり「南」区の「木」であり、区内の神社や寺院にも数多く植えられています。



村上社の楠（市の天然記念物）をはじめ、名木・古木があちこちに見られます。